

平成 28 年度

事業者番号

0092

事業所番号

009201

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあっては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
C	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	コーラゴーキン株式会社 本社工場		
事業所所在地	市区町村	深谷市	
	字・地番	中瀬550番地1	
産業分類名(中分類)	非鉄金属製造業		
分類番号(中分類)	23		
事業活動の概要	事業内容 従業員数等	事業の内容:ダイカスト製品(自動車用、通信電機器具用等)の製造 従業員数 64 人(派遣等は含まず)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第2計画期間の削減目標

計画期間		27	年度	～	31	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	【平成27年度】基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を6%以上とする。 【平成28年度から平成31年度】基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率を13%以上とする。(必要に応じて排出量取引を活用する)				
	その他ガス					
エネルギー起源CO ₂ の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	18,966	t-CO ₂			
	削減目標量(計画期間合計)	2,489	t-CO ₂	事業所区分	第2区分	

(2) 第3計画期間の削減目標

計画期間			年度	～		年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1)原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
	1,676				

(2)計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算(t-CO₂)

		計画期間				
		27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
エネルギー起源CO ₂		3,651				
その他 ガス	非エネルギー起源CO ₂					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		3,651				

(3)計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況(エネルギー起源CO₂)CO₂換算(t-CO₂/指標)

				計画期間				
				27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位				4.6838				
活動規模の指標		生産量						
	○	生産額	百万円/年	780				

日本工業規格A列4番

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	4,291	t-CO ₂ /年
基準排出量検証	基準年度検証実施済	

(2) 基準排出量の変更

変更年度		変更量	
変更年度		変更量	
変更年度		変更量	

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

27	年度から	31	年度まで
----	------	----	------

(5) 年度ごとの状況

		27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)	削減期間 合計
基準 排 出 量 等	基準排出量(A)	4,291	4,291	4,291	4,291	4,291	21,455
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	6.0%	13.0%	13.0%	13.0%	13.0%	
	排出上限量 (C = $\Sigma A - D$)						18,966
	排出削減目標量 (D = $\Sigma (A \times B)$)						2,489
実績	エネルギー起源 CO ₂ 排出量(E)	3,651					3,651
	排出削減量 (F = A - E)	640					640
特例	高効率設備の 算定量(※)						

※ 算定を希望する場合のみ記入する。別途、算定資料(任意様式)を添付すること。

(6) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

- ・平成27年10月に生産設備を増設した為、排出量が増加した。
 - ・コンプレッサーの老朽の為、排出量が増加した。
- (平成28年2月に100馬力1台をインバーターに更新済)

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対策の区分			対策概要	実施年度	推計削減量 (t) (一年度 当たり)
	区分 番号	区分名称				
		大区分	中区分			
1	310100	一般管理事項	31_推進体制の整備	地球温暖化対策に関する推進組織の整備	H26以前	
2	310300	一般管理事項	31_計測及び記録の管理	排ガス温度、排ガス中残留酸素量の計測とその結果に基づく燃焼調整（平成24年7月測定機器購入）	H26以前	90
3	310400	一般管理事項	31_エネルギー使用量の管理	L P G購入量と生産状況の整合	H26以前	
4	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	ペーパーライザーの気化改善（更新による能力アップ）	H26以前	40
5	329900	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	溶解・保持炉の炉壁及び扉の修繕	H26以前	10
6	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	生産状況に合わせたコンプレッサーの稼働制限	H26以前	20
7	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	必要最小限の照明の点灯	H26以前	15
8	350600	受変電設備、配電設備	35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	高効率ランプに交換	H26以前	30
9	330200	空調設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	トッランナー変圧器に交換	H26以前	12
10	370700	電動応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	省エネエアコンに交換	H26以前	4
11	370700	電動応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	高効率ダイカストマシンに更新（油圧式→電動サーボ）	H29年度	10
12	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	高効率モーターのコンプレッサーに更新（100PS：1台）	H27年度	20
13	329900	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	省エネバーナーの溶解・保持炉に更新（2台）	H28年度	40
14	490100	その他	49_排出量取引	自らの削減による目標達成が難しい場合、排出量取引を利用する	H32以降	
15						

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

日本工業規格A列4番

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

I. エコアクション21の認証を取得

当工場では、平成18年8月15日にエコアクション21の認証を取得し、環境活動に取り組んでいます。

II. 環境活動レポート（当社にて閲覧と下記にて）

URL: <http://www.cola-gokin.co.jp>